

平成10年6月(1998年) No. 390

## 快晴に恵まれた高野山撮影会

去る5月30～31日に行われた高野山撮影会は、前日までの雨もようやくあがり、初日の土曜日は午前中曇っていて今にも降り出しそうなお天気でしたが、宿坊で一服しているうちにどうやら持ち直し、2時過ぎには薄日の射す好天気へ一転。参加者一同、金剛峰寺をはじめ、大搭、大門など、被写体一杯の高野山の有名寺院を中心に快調な撮影をこなしてきました。元気のいい面々は大門の裏山に登り、何とか俯瞰撮影しようとして汗を流したグループもいましたが、さて作品の上にそれが反映されますか。

夜は、宿坊の天徳院にて18名の参加者一同、一人の欠席もなく宿坊らしい精進料理で楽しい懇親のひとときを過ごしました。その後部屋に戻って森さんと前田さんが用意してくれたウイスキーの水割り片手にビデオ談義に花を咲かせるグループや、田邑さんがわざわざ車で持ってきていただいたノンリニア編集機器の実技セミナー?で熱心にご勉強のグループやら、夜の更けるのも忘れて楽しいひとときを送りました。

翌朝はまだ5時というのに、もうごそごそ起き出して奥の院へ撮影に行くのだ、というグループがあらわれ、それにつられて殆どの方が起きて身支度を始めるというご熱心さ。岡本さんの車で奥の院までピストン輸送をしてもらい、6時過ぎにはもう御廟の橋のたもとに半数以上の方が勢揃い、NHK?のビデオ撮影班も来ていて、お坊さんが御膳をかついで御廟にあがる一瞬のカットをモノにしようと皆張り切っていました。プロは人工スモッグを演出するなどさすがやることが大きくビックリしました。この日は終日快晴で思う存分撮影を楽しむことが出来、今年も無事撮影会を終了しました。

### 6月例会のお知らせ

6月例会は27日(第4土曜日)午後6時より、阿倍野市民学習センター(あべのベルタ3階)で開催します。新しく入会された方々の作品を特に大歓迎します。お互いに作品を見せ合って楽しくやりましょう。

### 5月例会のレポート

今月は総勢22名の賑やかな、そして和気霽々とした中での例会でした。司会

は合原さん、書記有村さん、デッキ係は新しく田邑さんをお願いして会を進行しました。

また今回から新しく受付係も設けられ出席者名簿への記入と作品受付をお願いすることにしました。今月は早速、渡辺さんをお願いしました。今後も例会のスムーズな運営を行うためにいろんな方にご協力をお願いしたいと思いますのでよろしくお願いします。

◆出席者：合原、有村、前田、関、上総、奥、森、今井、江村、松本、増池、渡辺、森口、安居、夫人、勝、田邑、金子、那須、中尾、岡本、岩井の皆さん  
(敬称略)

◆上映作品 (今月の講評は有村世話役の担当です)

1. 明石海峡大橋初渡りツアー 今井 羨美さん 8分00秒  
大橋開通の翌日、4月6日に老人クラブの主催するツアーに参加されて徳島へ、四国霊場第1番札所へ参り、市内大会場での記念「あわおどり」ショーをみて夜の大橋を渡って帰ってこられました。期待の大橋も桜も雨にたたられ残念でした。難しいことを考えずに気楽に作られた記録でした。
2. 若奈さん 安居 利次さん 8分30秒  
作品の出だしで若いご夫婦の特異な趣味を巧みにインタビューで引き出し、これは久々のドキュメンタリーの大作と期待したのですが、殆どが語りだけにおわり、全くの画足らずで残念でした。再度、ご夫婦共演のチンドン屋かショーの場面を撮影され、彼らの日常生活まで突っ込んでみたら、安居さんの生涯の大作が出来るように思いますが・・・。
3. 大念仏寺おねり 安居 良枝さん 8分40秒  
おねり法要をこのように近くでアップで捉えた映像はめったに見れるものではありません。例え幸運であってもこの好位置での確な画角で描くと迫力が違います。融通念仏宗の故事来歴も詳細に説明されよかったですと思いますが、欲を言えばこれに見物人の姿が数カットつなぎに入れば言うことないのに、と思いました。
4. ハワイの海 渡辺 雄史さん 4分00秒  
「珊瑚礁の彼方」の曲によってワイキキの浜辺で始まり、ホェールウォッチングから最後は「アロハ・オエ」で夕日が出ておわる。いずれも旅の楽しい思い出でしょう。ただ旅の序でにビデオを撮影するのと、撮る目的で行くのでは結果は大いに違う筈です。水平線が傾斜しないように、これからも楽しい旅の記録を撮って見せてください。
5. 水郷の詩 森口 吉正さん 7分55秒  
作品を見る人達は先ずタイトルから類推して期待感を持ちます。その意味ではこの作品は「観光近江八幡、水郷はいま」とでも付けた方がズバリだったのではないのでしょうか。構成が良いだけに惜しまれます。前景が一度ストッ

プするカメラでのオーバーラップは逆効果になるように使わない方がよいのご意見もありました。

6. 大富神社の神幸祭 奥 宏さん 8分43秒  
地図による場所の説明、神社の祭神、祭の由来など記録としては立派な作品で特に関係者の方々には貴重なものと思います。でも長く感じるのは否めず「素朴な村祭り」にテーマをしぼって起承転結を考えた再編集で別の立派な作品が出来るのでは、と思いました。
7. 安曇野を行く 関 剛さん 4分50秒  
作者が主宰する別のクラブの撮影会作品です。レンタカーを運転しながらの撮影で大変だったのですが、安曇野の象徴の道祖神、わさび田、りんごの花などを配し、天気の良いのを逆に利用して物悲しい感じのする映像詩に仕上げられたのは、さすがベテランです。
8. 周防、長門、安芸 名所めぐり 有村 博さん 14分43秒  
観光バスで行った通りに記録として編集したセオリーやぶりのものです。ですから途中でこんなダラダラしたん、あかんやんかと叱声を覚悟してましたが、感じとしては何とか鑑賞して戴けたようです。ただこの地に行ったことがない観客に、より親切な配慮をするにはどうしたらいいかが今後の課題のようです。
9. 室生寺 江村 一郎さん 5分30秒  
今年の石南花は例年になく咲き終りが早かったようです。それに行かれた時が雨で、これがかえって観光客が少なくそれなりの風情があったようです。BGMのワウフラが激しく話題になりましたが、是非いま一度研究して気持ち良い音楽で見せてください。
10. ミャンマー紀行 合原 一夫さん 17分30秒  
私達の世代ではビルマのラングーンの方が馴染みのヤンゴンを中心に、作者ご夫妻がミャンマーの仏教遺蹟を訪ねての旅行記です。快晴に恵まれ金色に輝く寺院が美しく捉えられ貴重な記録をものされました。私事（有村）で恐縮ですが昭和4年にこの地のフェア街で生まれ3才まで住んでいたと、かねてより両親より聞いていましたので、この他興味深く拝見しました。映像クラブならではの貴重な体験でした。有難うございました。
11. ねこふんじゃった 森 保信さん 1分50秒  
榊原温泉口に猫の楽団の飾り物があったのでそれを撮影し、お馴染みの音楽をBGMにお遊びのビデオをつくりました、と作者のコメントです。どこか何か違和感があるな、と思いましたら歌詞や鳴き声が中心の音楽に映像はオーケストラの演奏スタイルだけなのです。その違和感が面白いと言えばそれまでですが・・・。
- 12) ご苦労さまでした京津線 前田 茂夫さん 15分10秒  
鉄道マニアの作者が何回も何回も場所を変えての撮影を重ね、昨年秋に一部

廃線になった路面電車を追った努力作です。ご自分が演奏するコンピュータ音楽が全編に流れ失われてゆくものの哀感を出そうと努力されています。しかし乗客が少なくなつての廃止ではなくて地下鉄に一部とってかわる発見的な部分廃線にどうしてこんなに騒ぐの、と言うのがマニアではない一般の観客の率直な感想でしょう。その意味で最後の夜のあたりを今少し短くさらっと流して戴くとより共感を得た大作になるように思いました。

13. 冬の海岸 那須 典彦さん 4分00秒

いつもの美しい映像で越前海岸での冬の荒れ狂う日本海を表現されました。全体に同じようなカットがならび、ここ一番の盛り上がる所がほしいと思つたのは私だけでしょうか。冬の海でよく見かける「波の花」がほしかったとのご意見がありましたし、大波をスローモーションで1回、後半にと欲張つたことを申し上げました。

以上で会員さんの作品上映を終り、2次会は喫茶店と居酒屋に別れて楽しみました。

## 高野山撮影会作品は15分以内 7月例会で公開審査

◆高野山撮影会作品コンテストは7月例会で公開審査を行います。作品の長さは15分以内とします。出品者全員に出品賞としてビデオテープを進呈すると共に、最優秀賞、優秀賞、秀作賞にそれぞれトロフィを贈呈、最優秀賞作品はOMCフェスティバルにて上映します。どうぞ撮影会出席者は全員出品されますようお願いいたします。同じ場所、同じ条件、同じようなカメラで撮影した映像が、各人各様「料理」の仕方によってこうも変わった作品になるのか、といった勉強になるはずです。とにかく折角撮影した映像ですから、編集して陽の目を見せてあげてください。楽しみにお待ちしております。

◆宮崎紀代子さんの郵便番号が違っていました。ご訂正ください。  
(4月号OMCニュース新入会者紹介) 誤578-0078→正584-0078

## 7月4日第3回日本を縦断する映像発表会

今や恒例になった阿倍野市民学習センター講堂で行われる「日本を横断する映像発表会」は、「・・・縦断する・・・」と名称を変更され、その第3回発表会が7月4日(土)午後1時より行われます。今回はOMC世話役の有村氏の「氷瀑」、上総修一郎氏の「十戒の山・シナイ山」の2本をはじめ、女流映像作家として今や大活躍中の田淵千枝子さん作「艶」および金子喜代子さん作「伝説の中に生きる町」の2大作品、それに岡山のベテラン作家とりして注目される国友政夫氏の「高野山残像」、20代の若さでグランプリ作家として注目される吉田博氏の比叡山の僧を追いかけたドキュメンタリー「阿闍梨の背中」など、多彩な作品が発表されます。当日は12半開場ですが会員の皆様でお手すきの方は椅子並べや受付などお手伝い頂ける方は12時までには会場へお越しください。ご協力ください。

### ◆「横断」か「縦断」かの論争に決着

大阪でも前から「横断」はおかしいのではないかと、といった声が強かったのですが、東京でも異論が多かったとみえ、今回から「縦断」となり、一件落着のようです。

(合原記)